

会議録様式

審 議 会 名	令和4年度 第2回杉戸町新庁舎整備審議会
開 催 日 時	令和5年2月3日(金) 午後6時00分から午後8時00分まで
開 催 場 所	杉戸町役場 第二庁舎2階1・2会議室
会 議 の 議 題	(1)基本理念及び基本方針(案)について (2)ワークショップ実施内容について
公開・非公開の別	☒ 公開 ・ 非公開 (傍聴者数3人)
出席委員氏名	石原 和夫、岩本 明美、佐々木 誠、藏田 幸三、 藤岡 麻紀、池澤 龍三、井上 裕文、木村 三樹男

■審議の概要

1.開会

2.報告事項

(1)第1回会議における確認事項について

「第1回審議会意見回答書」の読み上げ。(事務局)

(2)町民・職員アンケートの実施状況について

町民アンケートの回収率は 31%(622件/2000件)で、現在集計中。(事務局)

3.議事

(1)新庁舎の基本理念・基本方針(案)について

庁内の検討会議において、たたき台として3つの基本理念(案)と基本方針(案)を定めた。本日はこの基本理念・基本方針(案)について、委員の皆さんに3つのグループに分かれ議論をして頂きたい。参考に他市町村の基本理念・基本方針事例を提示する。議論のテーマは次の通り。

議論のテーマ:「新庁舎において考慮すべき事柄」

グループ会議は1回35分で2回実施する。1回目は町民目線からの「新庁舎において考慮すべき事柄」の議論、2回目は職員目線からの議論とする。(事務局)

【1回目「町民目線」グループ会議後発表】

第1班(藤岡委員発表):

- ・本庁舎の機能と規模をコンパクトとし、公民館等にサテライト機能を持たせる。庁舎機能を分散させることで防災面でのリスクヘッジができるのではないかな。
- ・議場を町民も利用できるよう多機能とする。
- ・ワークスペースを設け、遊び場を併設することで、町民が子供を遊ばせながら仕事ができるような場所を設ける。
- ・寺子屋的な機能を持たせる。
- ・開放感、明るい雰囲気があると良い。

第2班(藏田委員発表):

- ・耐震性、浸水対策が重要。
- ・高齢者支援、DX 対応が可能なハードが必要。
- ・DX 化など役所の業務も変化していくが、対面の相談スペースは絶対必要。対面相談し易い雰囲気やしつらえとする。
- ・公園のような庁舎。町民が集ってくる、相談に行きたいと思う、小さな子供がワクワクするような雰囲気づくり。
- ・DX(デジタルトランスフォーメーション)、GX(グリーントランスフォーメーション)、サステイナブルをテーマに入れるべき。
- ・最初は必要な機能を設け、時間と共に必要なくなった部分を切り離す「ロケット方式」を提案する。コア部分を鉄筋コンクリート造とし、その他を軽量鉄骨などとする。
- ・集約化、経済性、合理性をテーマに入れるべき。

第3班(岩本委員、佐々木委員長発表):

- ・食堂を設ける。
- ・窓口カウンターや打合せスペースは宮代町役場を参考としてはどうか。
- ・木を使う。
- ・堅苦しくなく、相談し易い雰囲気。
- ・「杉戸町らしさ」を大切にしたい。宿場町としての歴史、流灯まつり、施餓鬼などの魅力をより発信できるような機能。

【2回目「職員目線」グループ会議後発表】

第3班(井上委員、事務局発表)：

- ・自然光、LED化、木目の家具、動線を広くするなど、明るい雰囲気づくりが必要。
- ・食堂・ランチスペースがあれば町民と職員の交流、職員同士の課を横断した交流ができるのではないかな。
- ・託児スペースを設けることで家族にとって働きやすい職場。
- ・リモートワーク、ペーパーレス化、フリーアドレスデスクなど働きやすい職場。また、リモートワークや育休といった制度を利用し易い雰囲気づくりが必要。
- ・各地に点々と役場のサテライト機能(窓口など)を設けることで、町全体が活性化するのはないかな。役場機能をフレキシブルにすることで20、30年後を見据えた計画ができる。

第1班(藤岡委員発表)：

- ・窓口カウンターの他に町民と職員のコミュニケーションが取れるスペースやプライバシー確保が可能な会議室が必要。
- ・収納をしっかり確保し、雑然としていない統一感のある空間。
- ・食堂やコンビニ、休憩スペースが必要。
- ・建て替えの際に断捨離やペーパーレス化をすることで書類等を少なくする。
- ・町のPRコーナーを設け、情報を発信。

第2班(藏田委員発表)

- ・現状動線が長く改善が必要。出入口が多数ありセキュリティの改善が必要。
- ・職場の快適性確保が必要。
- ・働く場所を仕事内容によって選ぶ(アクティブベースドワーキング)考え方の導入。会議をするのはここ、相談をするのはここ、集中して作業するのはここ、といったように場所を選んでいく働き方が良いのではないかな。
- ・テレワークの導入、託児所の設置ではなく、逆に託児所や保育園、学校にサテライト拠点を設けてはどうか(本庁舎のコンパクト化と同時に)。
- ・断捨離して気持ちの良いワークスペースの確保。
- ・杉戸町らしい、自慢できるような食堂。

(2) ワークショップ実施内容について

議論をより深めるためにワークショップ回数を2回から3回に変更した。参加予定者は町内3高校の生徒計6名と公募による町民24名の合計30名。4、5、6月の日曜日に実施する。各回のテーマは「1.現庁舎の課題」、「2.新庁舎に必要なもの」、「3.基本理念をふまえたまとめ」。(事務局)

(3) 質疑応答、感想

- ・本日の議論、町民・職員アンケート、町民ワークショップにより幅広い情報を得ながら議論のボトムアップを図ることで、基本構想をまとめていければと考える。(佐々木委員長)
- ・ワークショップについては30名参加されるため町民の関心が高いようだが、アンケートの回収率31%は予想の範囲内か。(石原委員)
→20%～25%の回収率を想定していたため、十分回収できたと考えている。(事務局)
- ・本日は良い議論ができたと考えている。(木村委員)
- ・DXの向き不向きは有ると思うが、前向きに取り組んでいければ良いと考えている。(池澤委員)
- ・コロナ禍初期には社内でリモート会議に否定意見があったが、現在は支障なく使用できている。DX導入についても同様に解消するのではないか。(藤岡委員)
- ・審議会、ワークショップもオンライン化し、資料を動画で説明するなど積極的に見える化できると良いと考える。(藏田委員)
- ・杉戸町らしさについて、杉戸町の目指す将来像(第6次杉戸町総合振興計画)の「みんなで育てるまち すぎと ～自然とやさしさがあふれるまちへ～」を忘れない方が良く考える。(井上委員)
- ・人口減少対策、町の活性化、人流の拠点となるような場所にしたいと考える。(岩本委員)

4. その他

本日は話せなかった追加の提案がありましたら、意見書に書いて後日送付頂きたい。(事務局)

5. 閉会